

共に手を携えて！

親が子どもの、子が親の命を奪うという耐え難い事件。いじめが原因で自分の命を絶つ子。人間として最も大切な命があつてなく消えていく現実がそこにあります。悲しいニュースが報道されるたび、憤りを覚えるのは筆者だけでしょうか！

知らないことが偏見になり、偏見が差別につながる怖さ！

筆者がある小学校へ赴任し、全校スポーツテストの時間、走り幅跳びの係をしていたときの事です。ある男の子が体を極端に左右にゆっさゆっさ振って助走し跳ぼうとしていました。その子とは初対面でした。なぜそのような走り方をするのか分かりませんでした。私にはその光景が、ふざけてわざとやっているように見えました。

そこで私は、『これはいかん。全体に示しがつかん』と思い、助走を止めさせて注意しようとして、周囲の子たちがその子に対して「たかしくん(仮名)頑張れ」と大きな声援を送ったの

です。私は『あれっ、なんか雰囲気が違うぞ』と思い、周囲の子たちが応援しているその子を見つめ直しました。よく見ると、たかしくんは、足に障がいがあり、走るのが精いっぱいなのにも見えました。

そして、近くにいた子が、たかしくんは小児麻痺を患って以来、歩行や走ることが困難であることをそっと教えてくれました。そこで、たかしくんのことを全く知らないで係の仕事をしていた自分に、初めて気がつきました。

障がいを持ち、憶することなく、自分の記録を1cmでも伸ばそうと一生懸命、走り幅跳びに挑戦していたたかしくんに対し、私は『スポーツテストだ。真面目にやらんか。なんだ、その走り方は』と、とんでもない言葉をぶつけようとしていたのです。周囲の子の声援がなければ、私はたかしくんに一生消えない言葉の暴力で、心に傷をつけていたかもしれない。

自分はなんと愚かなことをしようとしていたのだろっ、と反省しきりでした。私の偏見を子どもたちが教えてくれ、救ってくれたのです。なんと素敵な子ども

たちだろう。なんと素晴らしいクラスだろう。私は子どもたち

同士が支え合って共に成長している様子を見て、感動と感謝の気持ちでいっぱいになりました。そして、この学校や子どもたちが大好きになりました。また、この

ような子どもたちがいる学校では、いじめや命を落とすような悲しい事は絶対起こらないと確信しました。さらに私自身も、人権教育は命の教育であるということとを再認識しました。

知らないことが偏見に、偏見が差別につながるということの怖さと、人と人との繋がりが支え合うことの大切さを体験できた出来事でした。

教育委員会では、町の宝である子どもたちが、人権教育を通じて誰もが持っている、人間として当たり前の権利を、お互いに尊重しながら身につけてほしいと願っています。

身の回りの不合理に気づき、立ち向かい、偏見や差別をなくしていくために行動できる、たくましい益城っ子を学校・家庭・地域で共に手を携えて育てていきましよう。

益城町教育委員会

ふるさとの地名漫歩

歴史の変遷と地名

330

矢嶋姉妹周辺⑮

この様な学問と道徳体系の中での鶴子の女子教育は具体的にどうであつたかですが、

◆教育

1 武芸(夫の留守を護り、我が身(貞操)を守るため)

2 舞踊、音曲、詩歌(心の清さ、平静と調和養う。来

客・賓客への接待のため)

3 家事(炊事、洗濯、裁縫、養蚕・機織その他の家政・節約、倭約、自給自足を図る)

これらは家(家計)と生活のための献身であり、これは妻の使命としての責任の遂行です。

◆地位の責任

1 妻・刀自の地位の自覚としての内助の功(妻として家庭の維持)

2 子女の教育(母として人生の先輩としての教育。家計の維持、伝統的家風の子孫への伝達者としての責任の自覚)

3 この様な「婦徳・良妻賢母」の育成が、儒教に基づく鶴子の教育の内容でした。

ここで、矢嶋帽子の夫、た林七郎の人物資料を紹介いたします。

「四ノ八川原村士矢野清継・同区小谷村寄留士林七郎。」

県下騒擾之際、人心恟々、奸党某、俗徒党与ヲ唱導スト雖王確然方向ヲ定メ、村内ヲ説諭シ、為メニ其方向ヲ誤ラザルモノ渺カラス、専ラ説諭ニ尽力候事(事変西南之役・尽力者賞与履歴也)です。

この資料は、西南戦争当時、植木学校の民権論者(後に共同隊を結成)を指導者として、阿蘇郡を中心に取り上げた「戸長征伐(農民一揆)」が、小谷村や川原村に起きた時、殺気立つた村民を説得し、鎮静した功績への褒章です。

彼はまた横井小楠の弟子で、実学党の一人でもありました。

益城町文化財を訪ねる会

会長 松野國策



西南戦争「田原坂の激戦」